



第187号

発行所
 社会福祉法人
 西陣会
 HP: <http://www.nishijin.org>
 E-Mail: nishijinkai@nishijin.org
 〒602-8464
 京都市上京区元誓願寺千本東入ル
 TEL (075) 451 - 8971
 FAX (075) 451 - 5700
 発行者: 南大路 文子
 編集責任: 土屋 健弘
 郵便振替口座
 01030-5-23086

ホームページでも
ご覧になれます

当法人への寄付金は、課税控除対象となりますので、その為の受領書が必要な方はお申し出下さい。

変わらずに続けたいことと変えたいこと

理事 宇川 征宏

理事になり、早いもので、もう一年が経った。日々のニュースを見る度に、気が滅入る話題ばかりで、そのことは、法人の様々な活動にも影を落としている。新型コロナウイルスの影響で、社会はとてつもないスピードで変わり出しているが、私達の業界(西陣会はなのかもしれないが……)は、変化のスピードについていくことが出来ていない部分が多いように感じる。私達の活動は、支援を必要とする人達と距離を近づけていくことにより成り立っている。所謂、濃厚接触状態がどれだけ続いているのかが重要

視されている様に思う。でも、今支援が必要とされる方の傍に居続けるような行為を当たり前のようになっていると、何かの際に濃厚接触者として、認定される可能性が高くなる。その後のことを考えてしまうと、必然的に関わる時間は短くなり、やり取りする距離は離れていく。結果、支援を必要とする人達との良い関係は作り難くなっている、上手いかなくなるが増える。その度に、尊敬する先人に何度も言われ続けた「その方の唇の色は何色か? 顔の色は何色か?」を常に知っている人であれ

という言葉をいつも思いだす。支援を必要とする人達の仕方は、もう時代遅れなのだろうか? また、今後社会はどのようになっていくのであろうか? 私が社会福祉法人西陣会に入職して、十七年が経つた。様々な場所でも多くの人の出会い、多くの経験をさせてもらった。時には感情的になったり、虚無感に苛まれたり、私自身の浅はかな考えや行動で、他人を傷つけたら、苦しめたりすることもある。今思い返すと、恥ずかしい事だらけなのだが、全ての出来事や

りとりが私を育ててくれていると思っている。今、一緒に働いてくれている職員の皆さんにそのような場や環境を作ることが出来ているのだろうか? 通常業務を多く与え、目の前のことに集中させ過ぎてしまい、余裕をなくさせ、物事を多角的重層的に見たり、相談できるような時間を設けることが出来なくなっているのではないか? 日々のことから学べることももちろん多いのだが、自分を違う環境に置くことや新しい学びをすることで、自身のことを振り返ることも出来るし、自分が何をしたいほうが良いのかも見えてくるかも知れない。どんどん外に出て、多くの方から刺激を受けるような機会に参加してもらいたいし、そのような活動が出来るように応援していきたい。また、

自分の枠を超えるような活動を積み重ね、自分の振る舞い等を見返していく中で、誰もが生き難い状況の中でも、私達が今後何を大切に活動をしていくのかが見えてくるように思う。一つのことに対して、一つの答えがある訳でもない。様々な考え方から出される答えがある。どなたから出される考えも大切に受け止め、違いを認め合い、赦しあいながら、少しずつでも良いので、いろいろな素敵な人達が当たり前のよう集まる西陣会になる様に、与えられた働きをしていきたい。そのために、まず、私は、私自身の考えも仕事の仕方も変えないといけない。社会福祉法人西陣会に心を寄せて頂いている皆様、今後ともよろしくお願致します。

「ういずに出会って下さったみなさまに感謝をこめて……
ういずが閉所するから
会いに来てネ」展を開催しました。

所長 中山 あい

九月四日と五日のルビノホテルの1室は、まるで紫野小学校の見慣れたあの部屋のようにでした。入り口を入ってまず正面には、ういずの現役メンバーがつくってくれた横断幕とその下には、いつもの大きなみどりマットが。



て、ごろごろしたりジャンプをしたり。ふかふかの黒いソファにすわって、DVDを観ながらおしゃべりを続けるのはO君。



当時お気に入りだった帽子を見つけ、うれしそうにかぶり続けていたM君。

右手の壁には、ういずでの「つながる」をイメージしてたくさんさんの写真でかたどった「つながるひと」。



壁一面に飾った一枚一枚の写真を熱心に見入りながら思いにふける方々……。京都市から寄贈いただいた椅子の上からはみ出す勢いで、懐かしいCDを聴きながら当時と同じ姿で笑顔でリズムを取り続けるTさん。



笑顔のお子さんのお写真といっしょに会いに来てくださったご家族もおられました。ご来場くださったおひとりおひとりが、二日限りの「ういずのおへや」に駆け込んで、思い思いに時間を過ごされていました。



当日はスタッフ、ボランティアも含めて総勢百五十名以上が登場するスペシャルムービーの上映も行いました。ロビーでは、ムービーを見つめながら、当時の思い出話に花が咲き、笑ったり、涙ぐんだり。また、近況を語り合ったりと、話は尽きないようでした。

ういずでは、もと学童クラブやピーポメンバーたちも含め、たくさんの中高生たちが、仲間たちといっしょに青春時代を過ごしました。中高生たちにとっても、親御さんにとっても、そして職員たちやボランティアさんにとっても、ういずがかげがえのない出会いの場であり、居場所であったことをあらためて実感しました。十五年分のういずの歩みに、重ねてきた毎日に、思いをはせながらふんわりとあたたかな空気につつまれた二日間でした。

思いを込めて準備してくれた現役&もと職員たち、当日駆けつけてくれた方たち、メッセージや写真を送って下さった方たち、ウェブから会いに来てくださった方たち、お声をかけてくださった方々、本当にありがとうございました。今年の十二月三十一日まではウェブ版から二日間の様子を見ていただけますので、どうぞご覧ください。

あと半年、三月末まで、ういずは大切に毎日を重ねていきます。

地域生活支援ユニース

西陣会居宅サービス係

「コロナ禍での支援において感じること」

菅 真旅人

コロナ禍において障がいのある方の支援に従事させて頂くにあたって、最近自分が感じていることを一つ書かせて頂こうと思います。それは「ご利用者に感謝をしなければならぬ」ということです。

コロナウイルスが流行り一年以上の月日が経ち、みなさんも感染症対策は生活の一部になっているのではないのでしょうか。しかしながら、九月には緊急事態宣言が発令され、未だに油断ままならない状況が続いています。ご利用者の楽しみやご希望に沿って支援が出来ない事は私自身とても苦しさを感じています。そのような状況でありながらも、私と関わって下さるご利用者の笑顔や、ご家族のお言葉は自分にとってこれ以上ない救いになっていま

す。いつもありがとうございます。コロナウイルスが流行る以前と比べれば、ご利用者の生活環境はガラリと変更を余儀なくされています。何気ない移動中一つにおいても、【こだわり、ルーチンが崩れて不安に感じているけども、何とか持ち堪えられた、パニツクにならなくて良かった。ふう〜（ご利用者の心）の声】。表

出こそしていないけれど、たくさんさんのしんどさとご利用者は日々闘っているのだと思います。文章にすると非常に難しいですが、ご利用者の努力や工夫を当たり前だと捉えるのではなく、それらに気づき深く感謝する姿勢を保ち続けたいです。最後になりますが、再び以前の暮らしが私たちのもとに戻った際（緩和された際）、後悔のないよう、胸が張れるよう、一生懸命従事していきたいです！



食事は出来る限り外で！

デイセンターからつと

お互いを知り、受け入れ、支え合おう

ユニットリーダー 恒川 夏奈

チームワークとは、何だろう。

今年度から私は、ユニット①のリーダーを務めさせて頂いています。ご利用者が安心してできる環境づくりのために、今のユニットを、より働きやすい場所にしたと思っています。

そして、その実現には、「チームワーク」が大きく関わってきます。

私にとって、ご利用者のことをよく見て、お話を伺い、その人を知ろうとする事は、支援をするにあたって、無くてはならない事です。相手のことを知らなければ、お気持ちや想像することが難しいと感じるからです。ですが、ふと気づきます。一緒に働く職員のこととは、どこまで知っているだろうか？

その方がどういった人なのか。何に困っていて、どういったフォローがあれば

解決できるのか。この人に合った伝え方は何か。体調はどうか。

そういった、普段ご利用者に対して考えていることを、職員に対しては、できているだろうか？

そこから、職員のことにも目が向くようになり、今までの自分には無かった視点や、価値観に気づくことが多くなりました。うまく相手の助けになれた時は、やはり嬉しく感じるものです。

もちろん、全てが上手くいくというような事は無いのですが、それでも大きなやりがいを感じています。人を支援するのに、障害の有無は関係ない事を、改めて感じさせられます。

デイセンターからつとの強みは、やはり、チームワークであることだ、と思います。

人それぞれに、得意と不得意があって当たり前で、それは、リーダーという立

場の私にも、等しく言えること。それぞれの得意分野を活かして、お互いに支え合っている「チームワーク」が、私にとっての理想です。

ユニットリーダーとして人の上に立つことになり、やはり責任を感じます。しかしそのうえで、やる気や楽しさも感じています。それは、まだまだ不慣れな私を、皆さんが支えてくださっているからです。

新型コロナウイルスの影響で、今まで通りの生活が送れず、気持ちに余裕が無



デイ 散歩の出發!!

くながちな最近ですが、だからこそ皆で声を掛け合

ショートステイゆう

当たり前の中にある尊厳

所長 寺田 文

先日、妻と『コロナで世の中変わったよね...』と話している

この間も、ショートステイゆうは通常開所を続けてきた。ただ、それまでの

この二年に及ぶコロナ禍の時間は、常に不安や緊張が付き纏うものであった

葛藤しながらも閉所という判断をしなかった(正確には、出来なかつた)とい

グループホームきたまち

心の中がほっこり

グループホーム世話人 林 みどり

『おかえり』 『ただいま』 週初めの月曜日に二〇二一年四月からきたまちの世話

されているので、食べやすいように食材の切り方を気をつけて「作ればいいかな」と調理していきま

料理するのは好きです。但し、多い時で十三食を時間内で間に合うようにできる

最初は間に合うように作るのに精一杯で盛り付けまで気がまわりませんでした

ようになりました。

『いただきます』 キッチンから食べる様子を眺めて、食欲旺盛・食べ終

『ごちそうさま』 キッチンカウンターまで食器を下げてくださり、きれいな食器を眺めて、こちらが『ありがとう』。

家庭のような温かみのある季節を感じる献立、新鮮な野菜、肉、魚などを食べやすいように隠し包丁、楽しんでいただきたく飾り切りなど、苦手なものがあっても喜んで食べていただ

『よよなら、また来週!』 両手を振りながら、玄関まで見送って下さるご利用者の方、心の中がほっこりと温かくなります。そして、今度は家族の食事をと家路を急ぎます。

支援センター「きらリンク」

コロナ禍での研修

相談員 塩田 真里絵

八月八日、九日の二日間

は、さらリンクが京都府から委託を受けている、障害のある方とその支援者向けのIT事業のうちの一つです

もらい、受講者のサポートをしていただいていたことが、今回は職員が席を回り

開催するにあたって、まず会場は例年の三倍ほどの広さの部屋を借りました

でも、今年度は感染対策を徹底した上で行いました。開催するにあたって、まず会場は例年の三倍ほどの広さの部屋を借りました

支援センター「こじじい」

新しいことをすること

相談員 藤原 暢子

西陣会に来て十数年が過ぎました。歳を重ね、友人と話せば、更年期や病気等の

トヨガを始めていたのです。が、新型コロナになって一

どこの筋肉が鍛えられるか』や『ランニング等の有酸素運動は脂肪も燃焼する

以前のヨガでは、姿勢や重心に注意してしてゆつくり体を動かしていたのです

今後は言われるままに負荷を増やす挑戦をしますが、『何を指すのか、そのためにどう行動するのか』、色んなことがそこに繋がっていきなあと

路地裏ステーションニュース

西陣児童館

子どもたちのかかわりの中で

坂本 隼 哉

月契約職員から正規職員になって、半年ほどたちました。入職して最初に出会った一年生が立派な四年生になっているのを見て、この子どもたちは毎日様々なことを経験して自分たちが想像もつかないものすごい速さで成長しているのだと、感じています。

子どもたちが大きくなるにつれ、遊びの質が変わってきたことはもちろん、ほかの人とかかわり方も変わってきているなど感じています。

いま四年生の子たちと一年生のときに会った当初、彼らにはあふれ出る気持ちをどこかにつけようとして、表情やしぐさでその気持ちを表現していました。その子たちはいま、高学年となっています。表情やしぐさはもちろん

ん、そこに言葉が加わって、だんだん、自分の気持ちを表現することが上手になってきています。

月契約職員だった時、子ども達と同じ放課後を寄り添いながら過ごす中で、気持ちを言い表せない時にどのように表現しているのかを観察するようになりました。私自身が、他人とどのようにかかわっているのかを考えるようになり、他人に自分のありのままの気持ちを表現することは、とても難しいことだと感じるようになりました。

そして正規職員となつて、子どもたちと共に生活する時間が増えて、自分自身の振る舞いが彼らに与える影響が大きいことを再確認したとき、果たして自分は彼らに対してどんな風に振舞

えばよいのか、「自分らしく振舞う」とはどういうことかを、常に考えるようになりました。

今、この問いに対して明確な答えを出すことはできません。しかし子どもたちのかかわりの中で生まれたこの問いは、生きる上でとても大事なことだと思っています。私は子どもたちに、恐れずに表現することをできるようにになってほしいです。また、それを受け入れられるようになつてほしいです。このお互いを受け入れることのできる営みか自分らしさにつながるのかもしれない。

自分自身への変化を与えてくれた子どもたちに感謝するとともに、自分らしさとは何か、ということもこれからも考えていこうと思います。



何秒いける？

THE にしじんピック!?



手作りボウリング



ポ ッ チ ャ



わりばし鉄砲

「私のワンピース」



「バスに乗ってGo Go!!」

Zoom でじどうかん

活動日誌

【本部業務・公益事業】

- 7月
 - 5日 月曜集会
 - 12日 キャリアパス&人材育成計画推進委員会
 - 19日 産業医面談
 - 28日 産業衛生委員会 月曜集会 人材育成認証制度 審査会
- 8月
 - 23日 産業医面談
 - 26日 安全衛生委員会
 - 30日 ステップアップ研修 員会
 - 9月
 - 21日 キャリアパス&人材育成計画推進委員会
 - 27日 新任職員研修(中山理事)
 - 産業医面談
 - 安全衛生委員会
 - ステップアップ研修 委員会

【西陣児童館】

※緊急事態宣言発令中のため、児童館事業は9月30日まで休止。

- 7月
 - 16日 普通救命講習
 - 22日 小学校夏季休暇期間 (8月24日まで)
 - 29日 学童クラブ避難訓練 & 消火訓練



学童高学年の消火訓練

【居宅サービス係】

- 7月
 - 11日 居宅職員会議
 - 20日 サービス提供責任者 会議
- 8月
 - 8日 居宅職員会議
 - 10日 サービス提供責任者 会議
 - 18日・19日 強度行動障害支援者 養成研修講師派遣(森)
- 9月
 - 7日 サービス提供責任者 会議
 - 12日 居宅職員会議
 - 21日・22日 強度行動障害支援者 養成研修講師派遣(森)

【デイセンターふらっと】

- 7月
 - 19日 リーダー研修会
- 8月
 - 16日 華頂短期大学実習生 2名受け入れ (27日まで)
- 9月
 - 6日 サービス評価委員会
 - 15日 ご利用者の歯科健診

【きらリンク】

- 7月
 - 2日 北部自立支援協議会 運営会議
 - 9日 京都市自立支援協議会 権利擁護部会
 - 12日 障害者地域生活支援センター連絡会議
 - 29日 北部自立支援協議会 権利擁護連絡会
- 8月
 - 4日 左京こころのふれあい ネットワークワーキング会議
 - 8日 京都府IT事業パソコン応用講座 (8日・9日)
 - 11日 障害者虐待防止に係る窓口職員向け研修 (11日・18日)
 - 23日 障害者支援区分審査会
 - 30日 北部自立支援協議会 児童養護自立支援連絡会
- 9月
 - 13日 北区こころのキャンパス ネットワーク実務者会議
 - 28日 基幹センター会議

【にしじん】

- 7月
 - 1日 中部自立支援協議会 事務局会議

8月

- 8日 機能集約合議体 15支援センター連絡 会議
- 12日 中部自立支援協議会 運営会議
- 15日 日常生活自立支援事業・契約締結審査会
- 19日 ひきこもり支援会議
- 6日 日常生活自立支援事業・契約締結審査会
- 16日 中部自立支援協議会 相談支援専門員カフェ
- 19日 相談支援専門員 初任者研修講師派遣
- 26日 中部自立支援協議会 医療的ケア専門部会
- 9月
 - 7日 中京権利擁護ネットワーク会議
 - 9日 機能集約合議体
 - 14日 地域あんしん支援員 設置事業選定会議
 - 16日 中部自立支援協議会 運営会議

※毎月、施設長会議・主任会議を実施しています。その他、諸事業諸活動においても定例活動を行っております。

センター往来

◎7月28日(水)京都府庁にて人材育成認証制度審査会が行われました。京都府における福祉分野の人材育成の取り組みは全国的に進んでおり、当法人としても学びながら取り入れていければと考えています。(小西)

◎9月4日(土)と5日(日)ホテルルビノ京都堀川にて「ういずが閉所するから会いに来てネ」展が開催されました。この二日間の様子は、今年の12月31日(金)まで見ていただけます。(詳細は2ページをお読みください)



WEBはコチラから!!
https://note.com/ainikitene_with/

◎9月15日(水)、法人の施設長研修を兼ねて、西陣会名誉顧問の深田未来生先生より、60周年に向けてのお話を伺いました。



デイ 宝ヶ池公園

職員人事(常勤職員)

退職

西陣児童館
 伊藤 諒子(9月30日付)

お祝い

9月8日(水)、居宅サービス係職員の近藤隆平さんに男の子がご誕生されました。おめでとうございます。

編集後記

先日、十五年以上も前に学童っ子として通っていた子が、「四月から、この子ども学童でお世話になりたいねん」と、お子さんと一緒に顔を出してくれました。七月生まれの妹さんも、児童館デビューがもうすぐ。

今年は、以前、親御さんと子育て支援プログラムに来てくれていたお友だちが一年生になって、学童さんとして戻ってきてくれます。小さいおともだちの素敵なお姉さんお兄さんとして、一緒に遊んでくれることもあります。

子育て支援を利用していただお母さんが、地域の集いの広場の子育てアドバイザーとして活躍されています。今まさに、一緒に連携をしながら上京区の乳幼児親子にかかわっています。

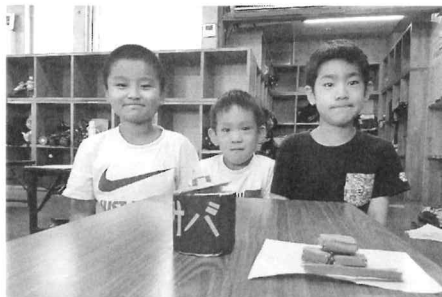
学童クラブを卒部し、その後も一般来館で中学生になっても遊びに来てくれていた子もいます。「今度は私

が目の中のこの子らにかえしていきたい」と、仕事の合間に、ボランティアとして来てくれています。彼女は、成人式を迎えました。

毎年、たくさんのお会いがあります。よい事ばかりではなく、失敗やご迷惑をおかけしたことも、いたみをおかけしたことも、いたみを伴う出来事もありました。

本当にたくさんの方々にお支えいただきながら歩んできました。職員も入れかわりながら、児童館事業も形を変えながら、今もなお、児童館がこの西陣の地にあり、職員もここにいます。

わたしたちの西陣児童館が、十二月五日で四十歳のお誕生日を迎えます。



サバ缶職人のみなさま

住所変更のある方、当機関誌のご不要な方はFAXにて(075)451-5700迄ご連絡下さい。

社会福祉法人 西陣会

- 。法人本部
- 。京都市民福祉センター
- 。地域活動支援センター くらっと
- 。地域生活支援事業
- 。レスパイトサービス
- TEL(075)451-1897
- FAX(075)451-1570
- 。西陣児童館
- 。京都市障害のある中高生のタイムケア事業 ういず
- TEL(075)451-1897
- FAX(075)451-1570
- 。西陣会居宅サービス係
- 。相談支援事業所 きずな
- TEL(075)451-1591
- FAX(075)451-1591
- 。デイセンター くらっと
- TEL(075)451-1591
- FAX(075)451-1591
- 。西陣会ホームとなり
- 。シヨートステイ ゆう
- TEL(075)468-1306
- FAX(075)468-1306
- 。西陣会ホーム きたまち
- TEL(075)468-1355
- FAX(075)468-1355
- 。京都市中部障害者地域生活支援センター にしじん
- TEL(075)471-1630
- FAX(075)471-1630
- 。京都市北部障害者地域生活支援センター きらリンク
- TEL(075)752-1016
- FAX(075)752-1016